令和7年度 高等部 経営計画書

1　目指す学校像

(1) 学校教育目標

「良さが輝き 未来をひらく」

一人一人が確かな学びを積み重ね、仲間と地域とつながりながら、自分の良さを生きる力へと輝かせ、夢や希望をもち、自ら未来をひらく(「開く」「拓く」「啓く」)人を目指す。

(2) 学部目標

自分の良さが分かり、強みとして社会生活で活かす力を育てる

(3) 目指す子ども像(願う姿)

・好きなことや得意なことが分かり、強みを活かし活躍する人
・自分に適したコミュニケーション方法を身に付け、必要な場面で使える人
・生涯学習や余暇活動につながることや物を見つけることができる人
・周囲との良好な関係を築き、協力して活動できる人
・自ら考えて行動することができる人
・自己理解を深め、心や身体の状態を自分でコントロールすることができる人

2　高等部の取組

【安全・安心】命と健康を守り、人権を尊重し、一人一人を大切にする学校

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標
ア	**生命の尊さや人とのつながりを大切にし、一人一人の良さを受け入れ、互いを思いやる心の醸成**	・人権感覚を高め、教員間及び生徒への適切な接し方について確認し合う機会を設定する。(学年会、職員会議、帰り打合せ、日常生活の指導) ・いじめアンケート結果に基づき生徒の気持ちを理解、把握するための個別面談を実施する。	・信頼できる教職員に向けて、自身の行動を振り返ることができた教職員(AB100%) ・相談できる教員がいると答える生徒、学校が楽しいと答える生徒(AB90%)
ア	命のつながりを実感する食育の推進	・保健指導に関するお便りを発信するとともに、栄養指導や保健指導等への保護者参加を呼びかける。 ・地域の産物や、食材の特長と栄養等、食育の視点を意識した学習活動を設定する。	・家庭と情報共有し、生徒の健康な体つくりに取り組んだ教職員及び保護者(AB100%) ・食と各教科等の関連を意識した指導ができた教職員(AB90%)
ア	**児童生徒の命を守る安全教育の充実**	・緊急時において主体的に行動できる実践力を育成するための訓練を繰り返し行う。 ・ヒヤリハットや事故があった場合、報告や連絡など迅速に対応する。	・安全教育で身に付けた知識や行動を、生活に活かすことができた生徒(AB100%) ・具体的な再発防止策を考え、迅速な対応ができた教

			職員（AB100%）

【専門性】確かな力を積み上げ、一人一人の良さを引き出す学校

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
イ	主体的・協働的・深い学びによって、資質・能力を育成する授業実践	・一人1授業によりお互いに学びあい、授業力を向上させる。	・授業づくりシートを活用し、授業改善を進められた教職員（AB80%）
イ	特別支援教育の専門性の向上	・生徒の実態や障害特性に応じた指導のための校内研修を充実させる。 ・わかりやすい支援を工夫し、生徒が意欲的に授業に取り組めるようICT を用いた授業を実践する。	・研修を受け、障害の特性に応じた支援を実践できた教職員（AB85%） ・ICT を活用した授業実践を行い、授業が分かると答えた生徒（AB90%）

【連携】保護者や地域と連携し、生徒の社会参加を目指す学校

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ウ	**キャリア教育の視点で小中学部、高等部のつながりと、児童生徒の願いや夢を大切にした進路指導の充実**	・卒業後の生活を見据え、進路決定に関わる機関等の見学を含む校外学習や生徒や保護者の思いを傾聴する進路面談を実施する。 ・生徒の願いや夢を叶えるため、地域社会の幅広い情報や進路情報を提供する。	・生徒や保護者とともに、目標の共有と実現に向けて始動した教職員（AB80%） ・生徒に応じた適切な情報提供や進路指導ができた教職員（AB80%）
ウ	地域住民との協働を推進し、地域と共に歩む学校づくり	・地域作業や作業製品販売等で関わりを広め、地域で活躍できる場や環境を設定する。 ・作業学習、総合的な探究の時間などで、地域の自然や歴史、産物等に触れ、その良さを感じられる活動を取り入れる。	・伊豆松崎分校の教育活動を、発信することができた教職員（AB80%） ・地域を活用した学習活動をとおして、生徒が意欲的に学んだと感じる教職員及び保護者（AB80%）

【チーム学校】教職員が主体的に学校づくりに参画する学校

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
エ	**特別支援学校のセンター的機能の充実及び関係機関との連携の強化**	・地域の特別支援教育のニーズに応じ迅速で丁寧な対応を実施し、校内で支援方法を探る。 ・連携支援会議（生徒、保護者、学校、居住地福祉課、相談支援センター、障害者就業・生活支援センターわ）を実施する。	・地域のこども園、小学校、中学校、高等学校からの相談依頼への対応 100% ・全生徒の連携支援会議実施 100%

エ	教職員一人一人が責任をもった業務遂行と、やりがいを感じる働き方の推進	・仕事の優先順位や効率的な仕事の進め方を考えたタイムマネジメントをする。	・計画的な業務遂行のために努力し、働き方を改善できた教職員（AB70%）

3　学部経営の考え方

人間関係の狭さや経験の少なさから、新しいことにチャレンジしようという気持ちが薄く、困難を乗り越えた達成感や自信を得る機会が乏しい生徒が多い傾向にある。卒業後の生活を意識し、自らの良さを知るとともに課題にしっかり向き合えるよう支援し、社会生活を送るために必要な知識・技能、コミュニケーション力を高めていく。また、課題解決する力や、意思決定をする力をつけ、他者との関わり方を学び卒業後、自立した生活を送ることのできる力を身に付けられるようにする。生徒が障害を含めた自己理解・自己認識を深め、卒業後の進路や将来の生き方を主体的に考え、選択し実行していく力を育てる。

4　教科・領域等の指導の重点

(1) 教科等

ア　生徒個々の実態に配慮した指導が行えるように、指導方法や支援を工夫したり、学習集団を編成したりして、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る。

イ　「主体的・対話的で深い学び」の視点から教材研究や授業改善に取り組み、生徒の心が動く授業を実践する。

ウ　ICT を活用し、個に応じた指導や集団での意見の練り合い等、授業の充実を図る。

(2) 自立活動

ア　保護者と教員が個別の教育支援計画や個別の指導計画に関する合意形成を行い、共に生徒を育てる。

イ　生徒が自分の障害について理解を深め、社会の中を生き抜く力を育てる。

ウ　教育活動全体を通して、相手を意識したコミュニケーションをとろうとする態度を育てる。

(3) 特別の教科　道徳

ア　人権教育を通じて、思いやりの心や命を大切にする心を育てる。

イ　話し合い活動を充実させ相手の立場に立って考えたり相手に分かるように伝えたりする他者意識を高める。

ウ　様々な教育活動を通じて、生徒が時や場に応じてどのような行動が適切かを判断し実践できる。

(4) 特別活動

ア 生徒会活動

・生徒会活動を通して、生徒同士がお互いの良さや頑張りを認め合い、協働して最後までやり抜く力を育てる。

・生徒会が中心となり、より良い学校生活を送るための課題や地域とのつながりについて考え、解決に向けて働きかけるリーダー意識を育てる。

イ ホームルーム（学級活動）

・学級で役割を分担することで責任感を持てるようにし、集団の一員としての自覚や自主

的な態度を育てる。

・話し合い活動を通して、人間関係形成能力や主体的に課題を解決する力を育てる。

(5) 総合的な探究の時間

ア 西豆学を含め生徒が自ら課題を見つけ、その方法を探り、実践を重ねる場とする。

イ 話合いや発表の場を通じてプレゼンテーション能力の育成を図る。

(6) 重複障害生徒の指導（発達に課題のある生徒も含む）

ア 生徒の実態把握を十分に行い、指導の方向性について教員間で共通理解を図り組織的に支援や指導を行う。

イ 学年や学部全体の活動では、自分の考えを適切に表現し、相手の考えを正しく受け止められるように支援する。

ウ 保護者や生徒本人の思いを受け止めながら、必要に応じて関連機関と連携を図り、将来を見通した進路指導や支援を行う。

(7) 生徒指導

ア 生活上の課題に生徒自身が気付き、より良い生活が実現できるよう支援する。

イ 社会でのルールやマナーについて理解を深めて実践できるように、個々の生徒に合わせて支援を行う。

ウ 家庭と連携して生徒の行動や心情の理解に努め、指導上の問題点や課題を教員間で共通理解して指導にあたる。

エ 情報モラル教育を通して、スマートフォンやインターネット、SNS の使用について生徒自らが利便性と危険性の両面を理解し、適切に活用できる力を育てる。

(8) キャリア教育

ア 進路指導やキャリア教育を系統的に進め、キャリアパスポートを有効に活用するとともに、生徒の基礎的、汎用的能力を育てる。

イ 進路説明会、進路先見学等で生徒や保護者への情報提供、意識の啓発に努める。

ウ 職場実習や職場見学を通じて、生徒が働くことの意義を理解し、将来や生き方を主体的に考える力を育てる。

エ 将来に対する目的意識を育て、自己の能力や個性を活かして進路を主体的に選択する能力を育てる。

(9) 性に関する指導・心の健康の指導

命の大切さや心の健康について、個々の生徒の実態に応じて指導するとともに、養護教諭やスクールカウンセラー、関連機関、家庭と連携を図り、心理的に安定できる環境を作る。

(10) 交流教育

ア 同年代の生徒との関わりの中で自己の障害認識を深めたり、社会性を高めたりすることができるよう、計画的に事前・事後指導を行う。

イ 多人数の集団や地域の人との交流を通して、生徒が状況に応じたコミュニケーションや情報の取り方、伝え方を学び、今後の学校生活や将来に活かすことができるよう支援する。